

image circle

イメージサークル

2017年 新年1月号 Vol. 199 平成29年 1月 5日 発行 Homepage: <http://lpa-japan.sakura.ne.jp/index.html>

発行人 鈴木 克彦 編集人 松本 憲治

本 部：606-8174 京都市左京区一乗寺染殿町3-708（鈴木克彦方）携帯 080-3133-2651 TEL&FAX 075-781-3854

事 務 局：599-8111 大阪府堺市東区日置荘北町1丁47-5（松本憲治方） TEL&FAX 072-285-2575

名古屋支部：460-0014 愛知県名古屋市中区富士見町 13-19 富士見町八木ビル601号

プロフォート・NAGOYA内 TEL&FAX 052-332-7740



山梨県/山中湖 湖畔にて。やっと顔を出してくれた・・・ 4×5 300^{mm}

癒やしの写真

会長 鈴木 克彦

病いや飢渴や心の悩みをなおす。（広辞苑）心の傷を…（現代用語辞典）写真で語られるところの“癒やす”には、特に 大判写真展を覗られる人が「何故か心を洗われる、穏やかな気分になれる。」などが範疇に入るでしょうか。

2017年に入りました。新年にふさわしい言葉でいえば、目まぐるしいほどの世相の中で、この1年は、せめて我々の写真を通して、大判フィルムで捉えた 緻密でグラデーション豊かな作品を覗ていただくために頑張りたいものです。

昨年、撮影会担当の高田運営委員さんが日帰り、1泊2日、2泊3日と協会主催の撮影会を企画してくれました。久しぶりに多くの企画を立てて戴きましたが、企画が目白押しと

言う事で目移りしたのでしょうか？企画によっては参加者の人数がやや少なかった点は、撮影地までの距離や集合時間帯等の問題点を残しましたが… 会員のアンケートによる撮影地希望で進められた企画でしたが、私も含めて健康面のこととか、高齢化による踏ん張りがきかなかったことなど、幾つかの問題点も見えてきました。とは云え、我々会員としては「生涯現役」の気概で頑張るしかありません。

『日本大判写真展』2017京都展は3月28日から、4月18日から名古屋展が始まります。京都展終了のあと、京都市美術館は、3年間を掛けて耐震工事に併せて大きく改修されます。2018、2019展は久々に神戸市で開催の予定です。会員の皆さん、2017年も宜しくお願い致します。ぜひ“癒やしの写真”を狙いましょう！

撮影会』との案内でしたが、雪は全くなく大山の谷筋に細く雪が残る程度。気温も高く、晩秋の曇り気の中の撮影会となり、関西から7名、名古屋から1名の計8名の参加でした。

2日(金)、高田会員(2名の会員乗車)と中国自動車道の勝央パーキングで待ち合せ、4名で新見市の石灰岩の草間台地にある「羅生門」の撮影に挑戦しました。駐車場から徒歩約15分で「羅生門」の正面にある木製の見晴台に着く。地下の洞窟が一部を残して陥没し、高さ40mの石灰岩のアーチで上部は天然橋になっている。その後、井倉洞に移動。鍾乳洞の入口にある岸壁の途中から流れ出る井倉の滝を撮影。

その後、集合場所の明地峠駐車場に移動。他の4名は到着しており、これで全員集合。夕日撮影の準備。天気は良く夕日に期待をして各自大山と前衛の山なみ、送電線鉄塔の位置等々を考えて場所を決め、使用レンズを決めて夕日を待つが期待するほど焼けず。最後に大山の頂上付近と空が少し赤く染まり、慌てて撮影をする。撮影場所は、廃業している喫茶店の駐車場で7名、少し下の第3展望台で1名。大山の遠望が少しずつ違うので、出来上がりがどの様に違うのか楽しみです。撮影後、「新見温泉いぶきの里」に移動し、全員で夕食・宿泊。



思い思いの場所に三脚を据えて…

3日(土) 早朝撮影は昨日と同じ場所。目が慣れてくると、少し谷に雲海が見えてきた。天気は快晴でモヤも無く、空気も澄んでおり撮影には最高のロケーションで、各自急いで撮影準備。明るくなり全体が見えてくると意外に雲海が少なく、鉄塔が雲海に突き出てい

て残念。大山の東壁の頂上付近に、右から朝日が赤く染まってゆく。全員無口で撮影に没頭。よかった！欲を言えば、大山に積雪が欲しい。宿に帰り全員で朝食。



朝日に赤く染まる大山東壁と雲海

朝食後、全員の希望で本日の撮影場所は、御機の茅葺き小屋・奥大山スキー場・日光小学校付近と決定。9時に出発。小一時間で御机に全員到着。残り柿は無く残念だが、茅葺き小屋と大山、空気に透明感があり良い状態で撮影。その後日光小学校付近に移動。日光橋の上から大山を撮影。その後奥大山スキー場に移動。ナナカマドと大山を撮影。ここで昼食の予定だが、レストハウスが休業で昼食をどうするか。



先ずは全員で記念撮影

雪が無く大山道路のゲートが開いており、杣水原で昼食とし出発。途中の鍵掛峠で、大山の東壁と赤く実をつけるナナカマドを撮影。快晴の空、透明感のある空気と赤い実とのバランスが良い。最高のロケーション。



鍵掛峠から大山南壁を眺めて・・

遅い昼食を榎水原で済ませた後、夕日の撮影は1名・2名・5名と別れ、それぞれのポイントに移動。私と4名は御机の集落から下り、途中から右に入り根雨原の農道から大山東壁が全部見渡せるポイントで夕日待。夕日が背中から順光で東の空が真っ赤に染まると期待したが、昼間の透明感が無くなり、モヤが立ち込めてくる。西側は真っ赤な夕日雲だが、大山はあまり染まらず、最後の最後に東壁が朱色に染まった瞬間を撮影。宿に帰り全員で夕食・宿泊。

4日(日)早朝撮影は昨日と同じ場所。天気は下り坂で、昨日と打って代わり強風で雲海は飛び散り少なく、全体にモヤが出ている。大山は少し赤く染まった程度だった。宿に帰り朝食、精算後9時にいぶきの里の駐車場で解散。4名が井倉洞の井倉の滝・3名が来年度の課題の桜「醍醐桜」の下見に・1名私は直帰り。

色々とお世話になり有難うございました。皆様の力作を拝見できるのを楽しみにしております。

モノクロ研究会便り

モノクロ研究会 松本 憲治

先月の「レンタル暗室体験記」は如何でしたでしょうか？皆さんが撮影されたモノクロネガを、印画紙にプリントして楽しむ上で参考になれば幸いです。

関西会員の垣内会員から、早速、体験記で紹介したレンタル暗室「ライムライト」と連絡を取って「8x10のネガを全紙にプリント

出来るか」確認をしたところ、レンタルラボを使う了解が取れたと連絡を戴きました。1月中には全紙プリントを制作されると思いますので、1月研究会で仕上がったプリントを拝見できるかもしれません。8x10ネガの引伸しプリントに興味のある方は、1月研究会に是非ご参加下さい。きっと参考になるお話が聞けるとと思いますよ。

2017展に出展するモノクロ全紙プリントを、橋本会員宅の手作り簡易型引伸し機を使わせて戴いて3枚、レンタル暗室でラッキー45M-S(光源をLEDに替えた集散光式引伸し機)で4枚、制作しました。

仕上がった7枚のプリントを、12月研究会でチェックして戴いた皆さんの意見は、「光源のタイプ(散光式か、集散光式か)の違いが、かなりはっきりと出たプリントの仕上がりに」とのことです。コンデンサーレンズの入った集散光式の場合、散光式に比べるとコントラストがVCフィルターにして約1段程度強めに仕上がるような印象です。今後、プリントを仕上げる上で非常に参考になるご意見を、たくさん頂戴しました。

因みに、今回仕上げた7枚のプリントの露光時間を比較したところ、おおまかに云って『集散光式は、散光式の約半分の露光時間』と云う結果でした。

柔らかい表現の作品に仕上げるときには散光式の引伸し機を使うとか、光源のタイプを仕上げる作品によって使い分けるのも、一つの方法かもしれません。